

第2回 横浜市晴嵐かなざわ指定管理者選定委員会 会議録	
日 時	令和3年7月26日(月) 午前10時00分～午前11時50分
開 催 場 所	金沢区役所6階2号会議室
出 席 者	中西委員長、沓澤委員、鈴木委員、高林委員、高松委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開(傍聴人:なし) ※一部非公開
議 題	1 応募団体の面接審査 2 指定候補者の選定審議
決 定 事 項	1 委員会の公開・非公開、面接審査の進め方、採点方法については、第1回指定管理者選定委員会で審議・決定した内容のとおりとすることを確認した。 2 公益財団法人横浜市老人クラブ連合会を指定候補者と決定した。 3 報告書の作成、議事録の確認は委員長に一任する。
議 事	<p>1 応募団体の面接審査 応募1団体について、15分間のプレゼンテーション後、20分程度の質疑応答を行った。</p> <p>2 応募団体との主な質疑 (委員) 他区での運営実績があるとのことだが、横浜市は人口も多くまた広いため、区ごとで状況が異なると思う。金沢区の地域特性についてどう考えているのか。また、金沢区内で活動している団体などとの連携実績はあるのか。 (団体) 市老連として金沢区シニアクラブ連合会や各区の老人クラブ連合会と連携・協力体制をとっており、2か月に1回、年6回程度館長と会議を持って意見交換させていただき状況の把握に努めている。また、金沢区シニアクラブ連合会の事務局が晴嵐かなざわのある「いきいきセンターかなざわ」内にあるため、老人福祉センターと連携した取り組みを行ってきているほか、老人クラブ連合会とも常に情報共有させていただいてきている。 (委員) 現時点で金沢区と他区との違い、地域性についてどのように意識しているのか。 (団体) 地域性については対応しなければならないと考えており、横浜市内でも高齢化率で違いがあり、金沢区はその中でも比較的高い。一方どこの老人福祉センターを見ても5年前に比べて利用者が1万人以上減少している。当法人が指定管理を行っている3施設についても同様である。どの区においても多様性がある一方で高齢者の一人暮らしや孤立化が増えてきている状況である。これを踏まえ老人福祉センターを使って人と人とかかわりを持てる環境を整えていきたい。 現状、いきいきセンター内では各施設間のコミュニケーションが他の施設に比べても強い方に思えるし、他世代交流も密に行われていると思っている。これらを継続して取り組んでいくことが大切だと考えている。 (委員) 施設から遠い地域への広報手段として市の広報、ホームページ、自治会町内会の回覧板のほか、どのような手段を考えているのか。高齢者は遠くまで出かけていくのが難しくなるが交通の便を考えると例えばシーサイドライン沿いの人たちに利用してもらうためにどのような考えを持っているのか。</p>

(団体) 老人福祉センターは区に 1 か所であるため歩いて来られるような近隣の人にとっては使いやすい施設ではあるが、ある程度離れてしまうと施設自体余り知られていない状況にあるので、まずはどういう施設でどのような活動を行っているのかを広報よこはまなどの行政の広報媒体を用いてお知らせをしていきたいと考えている。また、こちらの運営を任せていただくことになれば、様々な講座や趣味の教室等メニューを幅広く用意し、利用したいと思う施設としてしっかりと運営していきたいと考えている。

(委員) 高齢者になると自治会町内会に加入していない人もいて回覧板を見られない人もいるので幅広い広報活動をお願いしたい。

(団体) 市の広報は自治会町内会を通じて行われているため、未加入者については町内の掲示板等に広報を張り出してもらうことすなどで周知していきたいと考えている。

(委員) 現指定管理者は様々な団体との連携が幅広くとられていたと思う。シニアクラブを中心に行うとのことだが、金沢区は一人暮らしの老人も多く必ずしもシニアクラブに入会しているとは限らない。また、老人会に入っていない人も多く他区とは異なるところが多いように思われるが、どのように考えているのか。

(団体) 企業、団体との施設間連携を行うとともに、シニアクラブとの連携ももちろんだが、区社協などいきいきセンターかなざわ内の各団体とも引き続き連携を図っていく。

(委員) 職員間での情報共有が欠けていると思うがどのように行っていくのか。また、施設利用の申込方法について改善していただきたいと考えているがどうか。

(団体) 職員間での情報共有については職員の勤務体制は所長 1 名副所長 2 名の計 3 名の常勤職員と実働部隊であるコミュニティスタッフとの間で多様な考え方を持つ高齢者の考え方を受け止めていくのかを職員間で情報共有していきたい。また、直接お話を伺ったり、「投書箱」など様々な手段により利用者の声を伺い、できることとできないことを明確に説明し、利用者の方々と十分なコミュニケーションを取り情報共有をしていきたいと考えている。

申込方法の改善については市が運用している地区センター等の予約システムに乗ることは難しいため、アナログ的な方法で対応せざるを得ない状況である。これまでの 1 か月前からの予約でいいのかについてはこれまでの運用状況を見据えて検討していきたいと考えている。

(委員) 事業計画書 7 ページの勤務体制について伺いたい。常勤職員である所長 1 名と副所長 2 名については現段階ではあるのか。

(団体) 指定管理者として指定される見込みが決まった段階で老人福祉センターについて十分な理解を持った人材をハローワークや就労支援センター等の機関を通じて雇用していきたいと考えている。

(委員) 現状の法人職員からの採用はないのか

(団体) 法人自体小規模なため新たに採用することとなる。

(委員) コミュニティスタッフについては現状勤務している人を継続的に雇用するのか。

(団体) コミュニティスタッフの新規採用は現状非常に厳しい状況あり、現スタッフの

意向を聞きながら継続雇用することが一番と考えているが、欠員が出るような状況であれば地元近隣の方を雇用していきたいと考えている。

(委員) これまで他の運営施設で起きた不測の事態に対する対応状況について伺いたい。

(団体) これまで運営してきている施設にはいずれも入浴施設があり、どうしても高齢になると入浴時のトラブルが発生しやすいため、巡回の徹底や時間制を取って対応している。また、トラブル発生時にはまず職員で対応するが必要に応じ適宜救急要請を行い対応している。

晴嵐かなざわの場合は入浴施設がないためそのような心配はないが、コミュニティスタッフによる常時巡回により声掛けや状況把握・情報共有によりしっかりと対応していきたいと考えている。

(委員) 最後に晴嵐かなざわに応募するにあたっての考え方を聞きたい。

(団体) 晴嵐かなざわについては施設内の4つの団体が連携しあうとともに地域の方々と素晴らしい関係を築いてきていると考えている。当団体としてもこのような良い点は引き続き継承しながらさらに良い施設運営を行っていきたいと考えている。

3 指定候補者の選定審議

評価基準項目に則り評価を行った結果、評点において最低基準（5割以上）を満たしたことから、公益財団法人横浜市老人クラブ連合会を指定候補者として選定した。

<採点の集計結果>

団体名	評点（合計）
公益財団法人横浜市老人クラブ連合会	398点

(500点満点中)

4 審査講評

指定管理者（公益財団法人横浜市老人クラブ連合会）

他区での老人福祉センターの管理運営実績を踏まえた提案が高く評価された。

一方で、現時点で職員採用に具体的計画がないことから、適材適所の人材が集まるかといった不安があるとの意見や、施設の特徴を生かした施設運営を行うとの提案について具体的な提案がなかったことなどが課題にあげられた。

また、現在、スタッフ間の情報共有不足が一因と思われる利用者とのトラブルが見られることから、職員間や、いきいきセンターかなざわ内での情報共有を徹底すべきとの要望があった。

今後、指定管理が開始されるまでの間に適切な人材の確保や、横浜市社会福祉協議会をはじめとする、いきいきセンターかなざわ内の事業者と十分に協議を行い、より具体的な事業計画を策定し、現指定管理者との適切な引継ぎにより老人福祉センターの運営が行えるよう、区役所からは適切な指導を行ってほしい。

資料・特記事項

なし